資料８

R6.1.22 総合教育会議資料（学校教育課）

「国際バカロレア（IB）研究会」の設置について

１　研究会の設置目的

グローバル化や技術革新が急速に進展する社会の中で、本市の子どもたちが未来社会を生き抜くための資質・能力を育成するとともに、教育の質及び学習意欲の向上を図るため、国際バカロレア（以下「IB」という）研究会を設置し、導入可能性について研究を進める。

⑴　IB 研究の背景について

現代は、将来の予測が困難な時代であり、社会の変化に柔軟に対応する力やグローバルな人材を育成することが求められている。

《こどもたちに必要な力》
★幅広い知識と基礎学力、批判的思考力
★国際的な視野を持ち、異なる言語や文化を背景に持つ他者を理解し、尊重する態度に基づくコミュニケーション力の向上
★自ら考え、行動し、社会課題を発見・解決する力

⑵　なぜ IB なのか

本市では、震災と原発事故という誰も経験したことのない状況を乗り越えていく中で、積極的にチャレンジする力や課題を発見し解決する力、様々な関係者とコミュニケーションを取り協働する力の重要性を実感している。

また、現代は将来の予測が困難な時代であることに加え、グローバル化も急速に進展していることから、国際的な視野を持って考え、行動する力を備えた人材の育成が喫緊の課題であると捉えている。

このような状況を踏まえ、本市の子どもたちが未来を切り拓き、強みを生かし、自分らしく豊かに生きぬくために必要な資質・能力を身に付けさせる有効な教育プログラムとして、また、当地方において国際的な視点で学べる魅力ある教育環境を構築するため、IB 教育について研究する。

IB とは

IB は、国際バカロレア機構（本部：ジュネーブ）が提供する課題論文、批判的思考の探究等の特色的なカリキュラムや双方向・協働型授業により、グローバル化に対応した素養・能力を育成する国際的な教育プログラムであり、これまで 150 以上の国・地域で取り入れられている世界標準の教育カリキュラム。

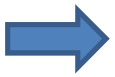
学習指導要領との親和性が高く、公立一条校でも導入が可能であり、また、IB の理念を踏まえた特色あるカリキュラムの構築により、こどもたちが予測困難な未来を生き抜くために必要な力の育成が可能。

⑶　IB プログラムを理解することによる効果

IB プログラムは、自分と異なる考え・価値観を尊重し、それぞれを認め、共感する心をもって生涯にわたって学び続けられるものであり、国際的視野を育むためのチャレンジに満ちた国際教育プログラムである。

IB の理念を理解し「南相馬市の授業スタイル」に取り込むことにより、第三次南相馬市教育振興基本計画に掲げる目指すこどもの姿、「未来を切り拓き、強みを生かし自分らしく豊かに生き抜くこども」に必要な資質・能力を育むことに近づくことが可能であると考える。

《IB の学習者像》
- ★探究する人
- ★知識のある人
- ★考える人
- ★コミュニケーションができる人
- ★信念を持つ人
- ★心を開く人
- ★思いやりのある人
- ★挑戦する人
- ★バランスのとれた人
- ★振り返りができる人



【南相馬市の目指す姿】
未来を切り拓き、強みを生かし自分らしく豊かに生き抜くこども

【知】自ら考え、判断し、表現する能力と確かな学力
【徳】豊かな心・ふるさと南相馬を愛する心
【体】力強く生きぬくための健やかな心と体

2　研究会の検討項目

今回、IB 研究会を立ち上げ、研究・検討する項目については次のとおりである。

① IB 導入校における効果的な教育プログラム、教育課程編成に向けた方向性や情報収集等
② IB 教育プログラムの教育課程へのすり合わせについて
③ 市内小中学校における IB 教育プログラム導入候補校の検討
④ IB 導入にかかる必要体制の検討（市、学校関係）
⑤ DP プログラム導入の検討
⑥ IB 教育プログラム導入におけるロードマップ作成

3　研究会の体制

- 委員長：教育委員会教育長
- 副委員長：教育委員会事務局長
  こども未来部長
- 委員：教育総務課長、学校教育課長、教育企画担当課長、学校教育課指導主事、こども育成課長、こども育成指導担当課長、イノベ政策課長、復興企画部参事（イノベ政策担当）
- アドバイザー（案）：IB コンソーシアム事務局、先進自治体関係者等
- 事務局：学校教育課教育企画係、教育総務課総務係

4 研究会スケジュール

本研究会では、令和６年３月までに、現状把握や事例調査、先進地視察を踏まえ、IB の市内導入の可能性について研究する。

令和６年度は、令和５年度の研究結果を踏まえて対応する。

【IB 研究会スケジュール案】

時　　期	作　業　内　容
令和 5 年 11 月	○IB 研究会設置
令和 5 年 12 月	○第 1 回研究会 ・IB の概要、認定プロセスの確認等 ・導入校の状況等の情報収集
令和 6 年 1 月	○第 2 回研究会 ・先進地視察の検討
令和 6 年 2 月	○IB 導入先進地視察 ○第 3 回研究会 ・先進地視察報告、教育カリキュラムの研究
令和 6 年 3 月	○第 4 回研究会 ・導入の可能性について（まとめ）

《参考（国公立 IB 認定校一覧（令和５年９月３０日現在））》

都道府県	学校名
北海道	市立札幌開成中等教育学校
宮城県	仙台二華高等学校
埼玉県	さいたま市立大宮国際中等教育学校
	筑波大学附属坂戸高等学校
東京都	東京学芸大学附属大泉小学校
	東京学芸大学附属国際中等教育学校
	東京都立国際高等学校
神奈川県	神奈川県立横浜国際高等学校
山梨県	山梨県立甲府西高等学校
滋賀県	滋賀県立虎姫高等学校
大阪府	大阪教育大学付属池田中学校
	大阪府立水都国際高等学校
鳥取県	鳥取県立倉吉東高等学校
広島県	広島県立広島叡智学園中学校・高等学校
高知県	香美市立大宮小学校
	香美市立香北中学校
	高知県立高知国際中学校・高等学校

※東北地方の国公立校では、DP（主に高等学校）認定校の宮城県仙台二華高等学校のみ。PYP（主に幼稚園・小学校）・MYP（主に中学校）の認定を受けている学校はない。

※国公立幼稚園（こども園）等で PYP 認定を受けている園は全国でも事例がない。